法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

フィギュアスケート観戦者の特性に関する研究

TAKEUCHI, Yousuke / INOUE, Takahiro / 竹内, 洋輔 / 井上, 尊寛

(出版者 / Publisher)
法政大学体育・スポーツ研究センター
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 = The Research of Physical Education and Sports, Hosei University
(巻 / Volume)
30
(開始ページ / Start Page)
63
(終了ページ / End Page)
66
(発行年 / Year)
2012-03-31
(URL)
https://doi.org/10.15002/00007808

法政大学体育・スポーツ研究センター紀要　30, 63-66（2012）

フィギュアスケート観戦者の特性に関する研究

A Study on Characteristics of Spectators of Figure Skating

井　上　尊　寛（法政大学）
Takahiro Inoue
竹　内　洋　輔（法政大学）
Yousuke Takeuchi

１．緒言

(財)日本スケート連盟では、フィギュアスケートの男女シングル競技における競技会として３つの全日本選手権大会とそれに伴う予選競技会を主催している。３つの全日本選手権とは、全日本フィギュアスケート選手権（以下、全日本）、全日本フィギュアスケートジュニア選手権（以下、全日本Jr）、全日本フィギュアスケートノービス選手権（以下、全日本Nv）であり、全日本Nvのみ男女シングルの中でノービス（以下Nv）A、NvBという２クラスのクラス分けが存在している。

それぞれの予選競技会に参加するためには、主に参加資格年齢と（財）日本スケート連盟フィギュア部が定める技能テストであるバッヂテスト[1]の参加資格級の取得が必要である。

Fig.1は予選競技会から全日本、全日本Jr、全日本Nv選手権大会への流れを記したものである。

予選競技会は東北北海道、関東、東京、中部、近畿、中四国九州の全６ブロックで行われ、ブロック競技会ではシニア、ジュニア、ノービス全ての予選競技会が行われる。シニア、ジュニアに関しては各ブロックから予選を通過した選手が東西日本選手権にそれぞれ原則最大30名出場する。NvA、B両クラスともブロック大会において予選を通過した選手と日本スケート連盟フィギュア強化部推薦した選手の原則合計30名が、全日本Nvに出場することとなる。また、ブロック大会以降の予選競技会、全日本競技会における最大参加者数は原則30名以内となっている。

東西日本選手権では、シニアとジュニアのカテゴリーが行われ、それぞれの競技会で予選を通過した者が、全日本、全

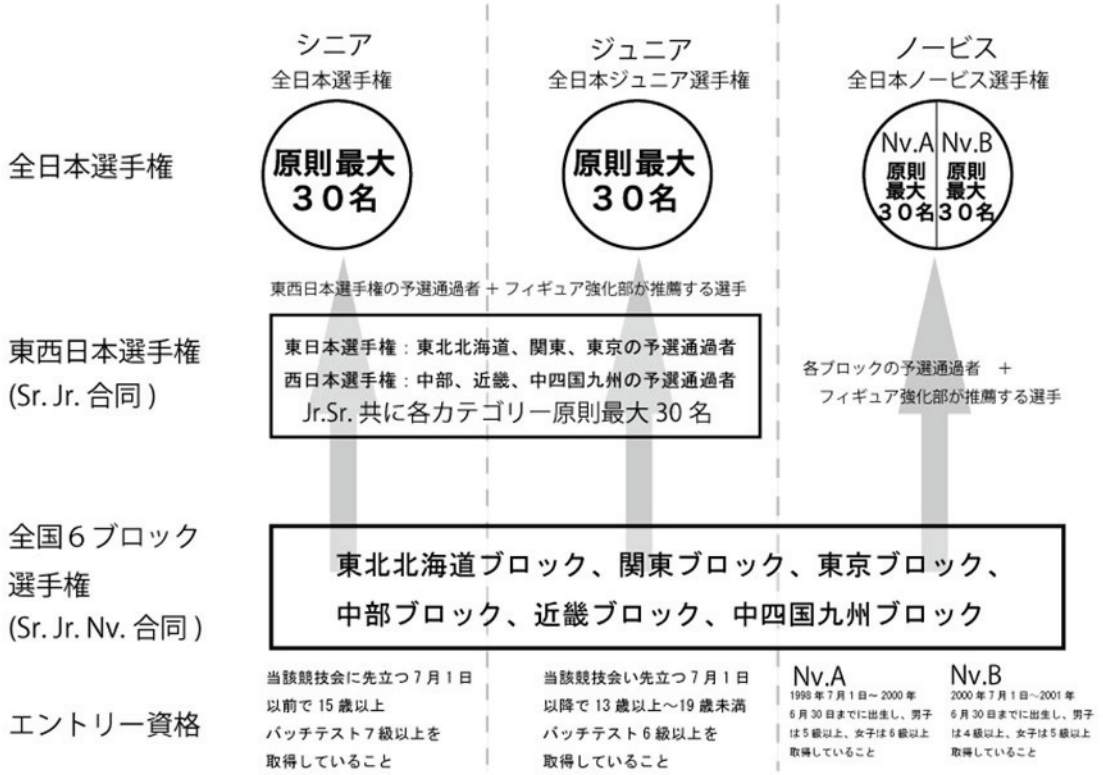

Figure 1　フィギュアスケートにおける予選競技会から全日本選手権までの流れ

日本ジュニアに参加する資格を得ることができる。

これまで、フィギュアスケートに関する研究では、主に技術的な側面からのアプローチを題材とする研究が主であり、観客の観戦行動に関する研究はみられない。

このことから、フィギュアスケートにおいては、今後の大会運営さらにはマーケットの拡大などの観点から、ファンとの結びつきを把握することは重要であると考える。

スポーツビジネスにおいて、ファンとの関係性に着目した研究は多くみられる。仲澤は、セグメントマーケティングの観点からサッカー観戦者において男性のルール理解度が高く、競技自体へコミットされている一方で、女性のファンは選手との結びつきが強いとし、女性観戦者と長期的関係を構築するためにはルールの理解を促すような学習支援的な取り組みが効果的であるとしている[1)]。

得点による勝敗や戦況の優劣を競う競技とは異なり、芸術性や技術の高さを競うフィギュアスケートにおいて、ファンと競技との長期的関係を構築するためにはルールの理解を促すプロモーションが有効であると考えられる。そのために、現状のルールの理解の実際や学習支援的な取り組みへのニーズについて調べる必要がある。

そこで、本研究ではフィギュアスケートのマーケティングに関する基礎的な研究として、（財）日本スケート連盟が主催するフィギュアスケート競技における全日本選手権のうち、最も位置づけが低い全日本Nvを対象とし調査を行った。この大会を対象とした理由は、現在の日本のフィギュアスケートを牽引しているトップ選手のほぼ全員が、歴代入賞者（3位以内）に名を連ねていることから、この大会は日本のフィギュアスケート競技においてトップ選手になるための重要な位置づけとなる大会であるためであり、ファンにとってもこれから活躍するであろう選手を見極めるために重要な位置づけとなる大会であることが考えられるからである。

これらのことから、本研究ではフィギュアスケートにおいてファンの個人的特性および複雑なルールの理解とルールの理解の必要性に着目し、それらを明らかにすることにより、観戦者の拡大や長期的関係の構築に資する情報の収集を目的とした。

２．研究の方法

２．１調査の概要

２．１．１調査期間および回収状況

2011年10月28日から30日まで東京都西東京市東伏見ダイドードリンコスケートアイスアリーナで開催された第15回全日本フィギュアスケートノービス選手権大会の観戦者を対象とした調査をおこなった。調査は29日、30日の二日間実施し、151票の有効な回答を得た。

２．１．２調査項目の策定

本研究では、個人的特性として、性別、婚姻の有無、自身のフィギュアスケート歴を設定し、観戦の行動としての特性として、同伴者との関係や規模、年間の観戦に関連する支出、グッズ購入費、情報収集経路などを設定した。また観戦の動機として、Jリーグ観戦者調査を参考に項目を設定した。ルールの理解に関して、ルールと理解の観戦への興味の関係、採点の要素の理解と、採点に関する情報の必要性についての項目を設定した。

３．結果

３．１個人的特性および観戦行動

table 1　個人的特性

性別	男性	37.1
	女性	62.9
	合計(%)	100.0
	n	151
	平均年齢(歳)	41.2
婚姻の有無	独身	35.3
	既婚	64.7
	合計(%)	100.0
	n	136
同伴者	ひとり	30.7
	友人	24.2
	家族	51.6
	その他	2.0
	平均同伴者数(人)	2.7
競技歴	ある	22.3
	ない	77.7
	合計(%)	100.0
	n	130.0
	平均競技歴(年)	4.1

table 2　昨年一年間に観戦した競技会(M.A.)

大会名	%	n
国内ローカル	72.1	98
ブロック	56.3	76
東西日本	16.2	22
全日本	33.1	45
全日本ジュニア	24.3	33
全日本ノービス	34.6	47
国内で開催された国際競技会	20.6	28
海外で開催された国際競技会	9.7	13
その他	5.9	8

table 3　自由裁量所得、観戦関連費用およびグッズ購入費

	平均(円)	標準偏差
1か月の自由裁量所得	52,532	57280.27
年間の観戦関連での支出	143,637	292726.37
年間のグッズ購入費	12,202	56550.67

個人的特性に関して、男性37.1％、女性62.9％と女性の構成比が高く、平均年齢は41.2歳であり、既婚している割合は64.7％と40代で既婚者女性が観戦者の多くを占めていることがわかった。また、同伴者との関係では30.7％が単独での来場であり、友人と回答したものは24.2％、家族でと回答した

ものは51.6％であった。同伴者の規模は平均2.7人であった。観戦者の競技歴の有無では77.7％が競技歴は無いと回答し、観戦者の多くは競技歴が無い者であることがわかった。一方で「競技歴がある」と回答したものの競技年数は平均で4.1年であった（table1）。昨年観戦した競技会については、国内ローカルやブロック大会など各世代別のカテゴリー共通で開催される大会を観戦している割合が高いことがわかった。さらに、ジュニアやノービスの世代別の大会や、国内外の国際大会まで観戦している者の存在がみとめられた（table2）。

自由裁量所得（月額）は52,532円、観戦関連の支出は143,637円であった。グッズ購入費については12,202円であった。しかしながら総じて標準偏差に大きな幅がみとめられることから、コアファンを抽出したうえで分析すると、かなりの支出がみられることが考えられる（table3）。

table 4　情報収集経路

情報収集経路	%
日本スケート連盟公式ホームページ	63.8
友人・知人・家族	43.0
街頭ビジョン	16.1
ファンブログ	14.8
会報	12.8
テレビ	12.1
選手などのブログ	10.7
twitter	10.1
新聞	7.4
SNS	6.7
スポーツ新聞	5.4
チラシ・パンフレット	5.4
スポーツ新聞	4.7
その他	4.0
ポスター	2.7
その他	1.3
一般の雑誌	0.7

情報収集経路では、日本スケート連盟公式ホームページが63.8％と最も高く、友人・知人・家族と回答したものは43.0％であった。街頭ビジョンは16.1％、ファンブログ14.8％、テレビ10.7％であった。また、選手などのブログ10.7％、twitterなどのマイクロブログは10.1％であった（table4）。

table 5　応援している選手の有無・応援年数

応援する選手	
いる	67.7
いない	32.3
合計(%)	100.0
n	96
平均応援歴(年)	5.5

応援する選手の有無では、いると回答したものが67.7％であった。また応援する選手はいないと回答したものが32.3％と、選手との結びつき以外の要因で来場しているものの存在がみとめられた。また、応援歴では平均5.5年であった（table5）。

table 6　競技会とアイスショーの選択

競技会とエキシビジョンの選好	
競技会	82.5
アイスショー(エキシビジョン)	17.5
合計(%)	100.0
n	114

フィギュアスケートはショートプログラムとフリープログラムで構成されている競技会と、エキシビジョンとしてのアイスショーも存在している。競技会の観戦者では82.5％と、競技会の方に興味があると回答しているものの割合が高いことがわかった（table6）。

３．２ルールに関する理解やニーズ

table 7　採点要素に関する情報提供へのニーズ

ルールがより解れば、より競技を見るのが面白くなる	4.3
フィギュアスケートのルールをよく知っている	3.7
競技会会場でルールに関する説明がほしい	3.4

5段階評価(5:大いにあてはまる～1:まったくあてはまらない)の平均値から算出

ルールの理解と観戦への興味やルールに関する説明の必要性に関しては、「ルールがより解れば、より競技を見るのが面白くなる」で4.33と最も高いスコアを示し、「フィギュアのルールをよく知っている」では3.75、「競技会会場でルールに関する説明が欲しい」で3.42と肯定的なスコアが得られた（table7）。

採点の基準として挙げられている点への理解については、総じて理解できていると回答しているが、ジャンプやスピンの種類や回数の規定、ジャンプの種類の区別が77.0％と最も理解している割合が高く、次いでジャンプの回転数の区別が76.8％、スピンの種類の区別が76.2％、スピン中の姿勢と難度が63.5％ジャンプ・スピン・ステップの出来栄えに関する評価で62.7％であった（table8）。

table 8　フィギュアスケートに関する採点要素の理解

	理解できている	できていない	計(%)	n
ジャンプやスピンの種類や回数の規定	77.0	23.0	100.0	97
ジャンプの種類の区別	77.0	23.0	100.0	97
ジャンプの回転数の区別	76.8	23.2	100.0	96
スピンの種類の区別	76.2	23.8	100.0	96
スピン中の姿勢と難度	63.5	36.5	100.0	80
ジャンプ・スピン・ステップの出来栄えに関する評価	62.7	37.3	100.0	79
音楽との調和に関する評価	60.3	39.7	100.0	76
スケーティング技術に関する評価	57.1	42.9	100.0	72
パフォーマンスや姿勢、スタイルの綺麗さに関する評価	57.9	42.1	100.0	73
振り付けへの評価	56.3	43.7	100.0	71

table 9　演技中や直後に欲しい情報

得点の詳細	4.2
スピン・ステップの難度	4.0
リプレイ映像	3.9
スピン・ジャンプの出来	3.9
ジャンプやスピンの予定要素と難度	3.8
ジャンプの回転不足	3.9

5段階評価(5:大いにあてはまる～1:まったくあてはまらない)の平均値から算出

フィギュアスケートの観戦者は競技歴が無い者の割合が高にもかかわらず、競技に関するルールの理解では採点の要素に関して理解している者の割合が高い。

競技終了後の情報提供に関しては、各項目に対する特典の詳細が4.2と最も高いスコアを示し、次いでスピン・ステップの難度で4.0と高いスコアを示している。総じて採点の要素に関する採点結果に関しての情報提供や映像での確認を求めていることがわかった（table9)。

３．３心理的特性

table 10　観戦動機

フィギュア観戦が好きだから	4.17	118
スケジュールの都合がよかったから	3.46	116
家族や知人が大会に出場しているから	3.45	126
好きな選手を応援したいから	3.36	118
レジャーとして楽しいから	3.25	117
友人や家族に誘われたから	2.74	118
好きなクラブを応援したいから	2.68	117
周囲で盛んに話題になっているから	1.94	117
チケットをもらったから	1.30	116

5段階評価(5:大いにあてはまる～1:まったくあてはまらない)の平均値から算出

観戦の動機ではフィギュア観戦が好きだからで4.17と最も高いスコアを示し、次いでスケジュールの都合がよかったから3.46、家族や知人が大会に出場しているから3.45、好きな選手を応援したいから3.36、レジャーとして楽しいから活動3.25であった。一方で友人や家族に誘われたから2.74、好きなクラブを応援したいから2.68、周囲で盛んに話題になっているから1.94、チケットをもらったから1.30で否定的なスコアが示された（table10)。

４．結論

観戦者の多くは40代で女性の構成比が高く、金銭的にも余裕がある層であると考えられる。また、スケート連盟のホームページから情報を収集する割合が高く、口コミやSNS、twitterなどのマイクロブログの利用もある程度みられた。特に金銭的な消費に関しては、他のプロスポーツと比較しても高い金額を示し、コアファンの中には国内のみならず、海外であっても応援に行くファンが多く、かつ年齢が低い世代から注目し、応援し続けている可能性も高いことがわかった。

観戦動機に関しては、調査対象試合がジュニアの大会であったため、保護者の構成比が高いかと思われたが、フィギュアスケートが好きだからと競技自体との結びつきが最も強いことが明らかとなった。また、応援している選手が「いる」と回答する者も多く、応援歴も５年と長く応援し続ける者もいることがわかった。フィギュアスケートはトップ選手の年齢も低く、５年という年月は下位のカテゴリーから応援していることを示していると考えられ、参加者の年齢が低い大会であってもコアな観戦者の存在が明らかとなった。

ルールの理解と観戦への興味・関心は強い関連性があることがみとめられ、総じてルールへの理解は高い値を示している。特にジャンプやスピンの難易度や回転数など数値を定量的に判断できる項目や、姿勢の形などに関する理解は非常に高い者がみとめられた。一方でスケーティングの技術や難しい姿勢の難度や振付けや音楽との調和、綺麗さなど主観的な評価要素に関しては理解度が低いことが明らかになった。

これらのことから、ジャンプやスピンの難度や振付など定量化することが難しく、観戦しながらでは判断できない要素への配慮が、ルールの理解を促進するために有効であることが示唆された。さらに試合後のリプレイと各要素の解説に対するニーズがみとめられたため、これらの理解度が低い要素についての解説を実施することは有効であると考えられる。

さらに、ルールの複雑さが無く、競技者の自由度が高いアイスショーよりも競技会を好む傾向がみられたことからも、ルールに関する理解を促すようなプロモーションは観戦者のコミットメントを高め、長期的な関係を構築するうえで重要であることが示唆された。

今後は子供の応援ではなく、ファンとして観戦に来ている者の構成比が高くなると予想される上位カテゴリーでの調査をおこない、フィギュアスケート観戦者の特徴をより詳しく把握する必要がある。また、観戦者拡大のための観戦者満足や効果的なプロモーションについても検討する必要がある。

注

i）バッヂテストは、日本スケート連盟フィギュアスケートテスト部が管轄するフィギュアスケートの技能テストであり、初級から始まり、１級、２級と技能レベルが上がっていき、最高の級は８級である。

引用・参考文献

1) 仲澤眞、平川澄子、Mahoney Dan（2000）Jリーグの女性観戦者に関する研究.スポーツ産業学研究、第10号.pp.45-57.
2) 国際スケート連盟ホームページ.http://www.isu.org.(2012年.2月20日現在）.
3) 日本スケート連盟（2011）ISU シングル・ペア・アイスダンス技術・特別規程2010.
4) 日本スケート連盟フィギュア委員会（2011）2011フィギュア・スケート審判の手引き.
5) 吉岡伸彦（2002）採点競技－採点の仕組みと問題点－フィギュア・スケート-. JJBSE6. pp.149-155.